

陶磁器の里 有田を訪ねて

—肥前 佐賀の旅(1/2)—

11/26/2017

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

鍋島焼の緑と青と白の色文様に魅了されてから、陶磁器に関心を持ち始めました。今回はそのルーツとも言われる肥前有田に足を運び、有田の街歩きを楽しみました。この時期秋の勤労感謝の日を挟んで「秋の有田陶磁器祭り」が開かれておりました。春祭りでは、通りという通りが500軒の店で埋めつくされるとの話でしたが、秋はのんびりと散策ができ、しかも紅葉の見どころ場所が満載でした。

【有田焼の三右衛門】

有田には、江戸時代初期から続く有名な「三右衛門」があり、そのひとつは「柿右衛門」、もうひとつは「今右衛門」、そして今回訪ねた「源右衛門」です。有田駅を中心とした東西の街並みは江戸時代から変わらないようで、その西の山に「源右衛門」窯はありました。現在約80名の従業員がおり、職人はもちろん営業や事務職が携わっていると聞きました。ただ、他の窯元と異なり、現在、当主はおらず伝統を守る職人たちで源右衛門様式の日常食器からインテリア、アクセサリまで多彩に展開しているようです。

昨年2016年は有田焼創業400年ということで、復刻版の大皿を展示してありました。白地に青い文様は見事なものでした。

また、同地内にある販売店では右のような現代の作品が展示してあり、繊細な文様に青と白の色のバランスのよい器を観ることができました。工房では、職人たちがろくろを回し、また色付けをしている様子を目の前で見ることができ、作品の完成工程を垣間見ることができました。



有田には、三右衛門の他にもたくさん作家や窯があり、東西に連なる4kmの道には、それらを取り扱う多くの店が並んでいました。

【街道での作品鑑賞と買い物】

2日目の目的は、有田焼の歴史を知ることと買い物でした。まずは有田焼の原料のとなる陶石の発掘地「泉山磁石場」に向かいました。ここは400年前に、朝鮮人陶工の李三平(のち帰化)が発見した、日本の磁器発祥の地です。現在は大きな山が削り取られ、まさにお茶碗をひっくり返したような形になっていますが、数百年にわたり碎石された山なのです。当日は開放されており中に入ることができました。ちなみに現在は枯渇して天草地方の陶石を原料としているとのことでした。

泉山磁石場をあとに、街並を西方面に散策に向かいました。



街道沿いには、実に興味のある店がいっぱいあるのです。その中で様々な窯元の商品を取り扱っている店や窯元など8店を訪ねました。窯元である店(今右衛門、香蘭社、深川製磁社)は作風が限られているので美術鑑賞という感じで目の保養で店内を通り過ぎました。

その中の一つ香蘭社では有田焼の色とりどりの骨壺 10 点程(4~7万円)が展示してあり、いずれお世話になるのかと思いつつ記念に写真を撮ってきました。

さて我々が有田焼などを買い求めた店の紹介です。

見事な大銀杏の大木(高さ 30m 程)近くにある、西山錦華堂の店内は、日常品から高価な展示品まで、ところ狭しと置かれていました。女将さんと話しながら日常用の皿を買い求めました。

また中山陶和堂では、元気のよいお兄さん(45 歳に見えないほど若い)と話をしながらの、野菜を描いたマグカップを値引きしてもらい買い求めました。

また雑貨からインテリアまでを扱っているセレクトショップ貴好人では、店の女性が好きな作家(宮崎県)の湯呑を買い求めました。これは早速旅行から帰った翌日から、この湯呑でお茶をいただいております。

また歩いていくと鷹巣瑞光堂のウインドウには、桜模様の見事なコーヒカップが目につきました。それに引き寄せられて、店内に入り値段を見ると高いので躊躇しましたが、ご主人に値段交渉し買い求めました。しかし普段使いするにはあまりにももったいなく、今井自宅の棚に入っています。

また昼食を兼ね「明治夢庵」に入りました。ここは小物品の販売とカフェを取り扱っていました。カウンター越しにご主人に話を聞いたところ、夫婦とも町役場を辞め営んでいるとのことでした。趣味のよさそうな店の雰囲気は夫婦の姿がそのまま出ているような感じを受けました。店の由来を尋ねたところ、亡きお父様がこのような店を持ちたいという夢と、「北川明治」という名前であったことから息子さん命名したそうです。ここでは、我が家の愛犬ハルに似た「柴犬」の置物を買い求めました。他の店でもそうでしたが、食事の際には、自分好みのカップ(もちろん有田焼)を選んでコーヒーをいただくことができました。

立ち寄った店では、店の人と商品のこと、また推奨する品々のことを話したり、四方山話などして大変楽しい時間を過ごすことができました。これも旅先での思い出の一つになっています。

【有田焼のカラクリ人形】

通り沿いの「有田館」では、何と有田焼で作られた「カラクリ人形」があり、人形劇「黒髪山の大蛇退治」を見学しました。20 年前の有田展覧会の際に作られたというものでしたが、実に精巧で首や腕、足といい見事な動きをして演じてくれるのです。右の写真にある、高さ 1m ほどの人形は全て陶器で作られているのです。



是非、有田の街歩きはお薦めです。但し、お金の持参は必須です。食事処は少ないですが、焼き物の販売店はこれでもかというほど多い街でした。

以上